

# リオサミットから20年

阿部 治

1992年にブラジルのリオデジャネイロで開かれた「国連環境開発会議」は、「環境と開発に関するリオ宣言」や「アジェンダ21」の採択、また気候変動枠組条約や生物多様性条約の署名など、地球環境保護やSD（Sustainable Development: 持続可能な開発）の方向性に大きな影響を与えた。それから20年経った2012年6月、同地で「リオ+20」が開催され、約190ヶ国・地域から、100人ほどの首脳を含む約45,000人が参加した。本稿では「リオ+20」の概要と成果について報告する。

「リオ+20」は、1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された地球サミット（国連環境開発会議）から20周年にあたる2012年6月にリオデジャネイロで開催された会議で、正式名称は「国連持続可能な開発会議（英名：United Nations Conference on Sustainable Development “UNCSD”）」である。地球サミットでは、アジェンダ21というSD（Sustainable Development）の具体化をめざした国際行動計画を策定し、サミットを契機に持続可能な社会の実現を目指すSDの動きが国際的に広まることになった。

私は1992年の地球サミット、その10年後の2002年のヨハネスブルグでの「持続可能な開発に向けた世界首脳会議」、そして本会議と10年おきに開催された国連環境サミットにNGOの代表として参加する機会を得た。特に本会議においては、後述するように環境教育/ESDにかかわる複数の公式サイドイベントで招待講演をするなど、多様な関係者と交流してきた。

リオでは6月13～15日の現地での最後の準備会合から、20～22日の首脳レベルによる本会議、そしてこの間に公式サイドイベント（13～22日）、企業の持続可能性フォーラム（15～18日）、先住民サミット（17～19日）、ブラジルのNGOが主催したピープルズサミット（15～23日）など、実に多くの会合が開催された。これらの一連の会合には、政府代表やNGOなど、191ヶ国（188ヶ国+3オブザーバー）から約45,000人が参加し、リオ+20は、国連史上最大の会議になった。

本会議では、成果文書“The Future We Want（我々が望む未来）”が採択された。本成果文書には、グリーン経済の推進や2015年が最終年であるMDGs（Millennium Development Goals: ミレニアム開発目標）の後継にSDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）を据えること、「国連ESDの10年」の一層の推進と2014年の終了後も、継続してESDに取り組むことなどが盛り込まれた。しかし、経済や国内問題などを理由に日本やアメリカなど先進国の首脳が参加しなかったことなど、20年前、10年前のサミットのような熱気は感じられず、残念ながら大きな成果を上げたとは言えない。ただESDの視点からみれば、「国連ESDの10年」の終了後も引き続き推進していくことが確認されたこと、さらに新たに始まるSDGsのペースとしてESDが重要であることはいまでもないことから、大きな成果があったとみることができる。

しかも、本サミットでは、従来、政府代表によって行わ



本会議の様子。撮影：阿部治。

れる本会議場と同じ場所でNGOや企業などが主催・参加するサイドイベントが行われたことは特筆に値する。20年前のリオサミットで、SDを具体化していくためには、多様な当事者による対話（マルチ・ステークホルダー・ダイアログ）が重要であることが指摘されたが、20年を経て、ようやくこのことが具体化されたといえる。もはや国連機関や政府機関だけでは、地球環境問題は解決されないのである。

本会議に参加した後、筆者はブラジルの生物多様性とエコツーリズムの調査のために、南パンタナールを訪問した。ブラジル特有の草原であるセラードを車で抜け、軽飛行機に乗り換え、農家民宿の手作りの飛行場に降りたことで始まったこの旅は、短期間ではあったが、ブラジルの豊かな生物相と抱える問題について知らせてくれた。

本テーマについては、改めて本誌で紹介したい。

- 日本のユースによるシンポジウム（6月15日午前）
- ESD as a Driver of Change towards a Green Economy（6月15日午後）
- インドのCentre for Environment Education（CEE）主催によるサイドイベントに招待参加し、“Understanding ESD and its role in fostering a Green Economy”のテーマで発表。
- 筆者が主催者（持続可能な開発のための教育の10年推進会議（ESD-J））として、サイドイベント“Message from Asian NGO Network on ESD（ANNE）: Role of NGOs in Empowering the Local Community for Sustainable Development”（6月18日午前）を開催。
- 台湾のEnvironmental Quality Protection Foundation主催によるサイドイベント“Forest, Livelihoods, and Green Economy, and Focuses on Environmental Education”（6月18日午後）に招待参加し、“The movement and challenges of ESD in Japan”のテーマで発表。